



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ
Rotary Opens Opportunities

国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Bulletin

30th anniversary

藤枝南ロータリークラブ 会報

例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内 藤枝市藤枝 4-7-16
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2020-21 年度
会長：松浦正秋 副会長：竹田敏和 幹事：鈴木健夫 副幹事：望月 誠

例 会 第 1 3 9 3 回： 通常例会/小杉苑

ソング われら日本ロータリアンの歌、星の界：ソングリーダー 漆畑雄一郎君

原点回帰

■ 会長挨拶

松浦正秋君



コロナ禍の影響により次週の夜間例会をお弁当配布例会に変更いたしましたので、今週の会長挨拶が上半期最後となります。早いものでもう6か月が過ぎようとしております。コロナ禍により夜間例会が開催できない等の影響はありました。しかし、通常の例会は滞りなく開催できたことは本当にありがたいことと思っています。

今年の漢字が「密」と発表されました。新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。感染拡大防止と経済活動の維持の相反する行動が求められました。このような状況が様々な変化を引き起こしました。ニューノーマル（新常態）という言葉が多く使われるようになりました。生活面ではマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、不要不急の外出を避ける等が求められます。企業活動では、在宅勤務の常態化、事業継続計画の重要性の再認識、デジタル変革への対応等が挙げられます。

北半球に冬が到来して、感染の拡大の勢いが止みません。欧米ではロックダウン等の厳しい対応が再び始まりました。また、今週、GOTOトラベ

ルの全国一斉停止が決まり、経済への打撃は計り知れません。しかし、今できることを確実に実行していかなければならないと感じます。過去の常識や成功体験が通用しない時代に確実になるようとしています。年末年始の時間を自分にとってのニューノーマルとは何かを考える時間にしたいと思っている今週です。

■ 出席報告

笠原大輔君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
38 / 51 74.5%	49 / 51 96.07%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 阿井君 ○植田君 ○江崎君 ○大村君 ○加藤君
- 佐野博君 ○佐野芳君 ○鈴木照君 ○中村君
- 瀧脇君
- 村松章隆君

(2) メイクアップ者

- 桑原茂君 (掛川) 大村和宏君 瀧脇一啓君
- 村松章隆君

食事準備数	食事提供数	残	累計残
49	48	1	19

パーフェクト例会数 😊😊😊😊😊😊😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

若大将航海記（バカ大将後悔記）



私はこの夏
7月1日から8
月半ばまで自
分のヨットで
瀬戸内海に航
海をしました。
ダブルハンド、
つまりはクル
ーの森ちゃん

と二人きりでの1ヶ月半の航海を振り返りながら、人間的に大きく成長して帰ってきた姿を皆様にお見せできることを嬉しく思います。また、年末近くの木枯らしの時期に、あえてこの夏の出来事をお話する機会を与えていただけたことに深謝いたします。

私のヨットはベネトウ社のオセアニス37フィートの外洋帆走船です。トイレやシャワーがあり調理も出来ます。1フィートは30.48cmですから約11.3フィートの長さです。

海上でのスピードをノットと言います。例えば5ノットのスピードと言いますと1時間に5マイル走れる早さとなります。海上では1マイルは1,852メートルですから5ノットは9,260メートル、時速9.26キロとなります。

私の船は中風でのセーリングでおよそ5ノットですからまさにドンガメのようなのろさです。エンジンでの機走の場合でもボルボを2千回転にして5ノットです。三保の灯台から御前崎港まで約35マイルですから中風ですと7時間かかることとなります。これに加えてやっかいなことに潮流があります。2ノットの向かい潮ならば実質3ノットしか出ていないこととなり御前崎まで12時間もかかってしまうこととなります。今回は港港に寄りながら沿岸を走りましたから黒潮の反流もあれば、瀬戸内海のような激しい潮流にもみくちやにされながら押し出されて猛スピードで鳴門海峡を抜け出たこともありました。

今回は7月1日にホームポートの富士山羽衣マリーナを出て御前崎港に入港、翌日福田港に入り以降4日間、強風と猛烈な雨で風待ち、潮待ちの日々をすごし、5日目未明の3時に福田港を出港、遠州灘を飛び越えて約70マイル先の的矢湾の安乗港を目指しました。全行程の2割程度行ったあたりから予想を覆す暴風が吹き荒れる恐ろし

い事態となり、結果15時間立ちっぱなし、飲まず食わずで嵐の中を渡りきり実際に入ったのは殿方に有名な渡鹿野島。ここでも風待ちで3日間、満を持して大王崎の波切漁港にて1泊、翌未明に出港し英虞湾を右手に見て五ヶ所湾にあるヨットハーバーの聖地・志摩ヨットハーバーにて舫いをしました。隣の船から私らは7日間もここで風待ちしていると聞いて、この時期に出てくるのは大馬鹿者だと痛感。船内を見ればカビだらけ、ブルーシートで天幕を張るも隙間から風やら雨が容赦なく入り込み、服までベトベトの状態。朝から宴会の日々を3日間過ごす。かくてはならじと一念発起、天気の間隙を付いて一気に熊野灘は尾鷲漁港まで突っ走り、ここでも風待ちで4日間自宅待機ならぬ船内待機。漁港としては三重県でも大きいところです。港町の風情が残っている町です。おばあさんがひとりで経営する銭湯は夕方4時から2時間だけ営業していて近所の年寄りの憩いの場となっていました。雨雨雨ですから傘を差して銭湯に行き、ずぶ濡れのまま寿司屋で大呑し、帰りにスーパーでマンボウの刺身を買ひ、やはりずぶ濡れで船に戻るとい生活。乾いた空間でゆっくり寝たい、何しろ私のバースの隣は鉄の塊、ボルボのエンジンが鎮座しているのです。漁港の岸壁には電気設備はありませんから、どうしても電気が必要なときはエンジンを回す事となります。すると猛烈に熱くなりますからとても寝られたものではありません。それでも那智勝浦、串本と漁港を転々とし、潮岬を越えて、周参見漁港に入ったときには愕然としました。八百屋も魚屋も何もなく1軒だけコンビニと書いてある店に入ったら乾麺や乾物のみの取扱。カップ麺が貴重品のように30センチ間隔で並んでいました。食品に関して、漁村は店舗自体がない事が多く、小さな何でも屋さんがあるだけという感じです。また、物価は藤枝の2倍でした。考えてみれば当たり前です。店舗間の競争も無いですが消費量も少なく運送するにしても手間暇ばかりかかりますから割高になるのは当たり前。うまい魚にありつけると思いがちですが全く期待できません。串本のスーパーで見た生しらすは静岡県産でした。

先を急ぎます。周参見漁港から南紀白浜シータイガーマリーナにたどり着き、精神的にも肉体的にも英気を養い、いよいよ四国は徳島のケンチョピアマリーナというふざけた名前(内容も世界一ひどいマリーナ)の徳島県庁前に滑り込みました。ここからは鳴門海峡を越えて小豆島、対岸の岡山

宇野、瀬戸大橋をくぐり抜けてまたまた対岸の香川県仁尾マリーナ、備後航路を横断しあこがれのしまなみ海道で一番のヨット泊地・弓削島の駅で遊び、同じくしまなみ海道の大三島を散策し、ここからは帰路に入りました。広島側の海の駅など施設はコロナで海上封鎖されている事が判ったからです。帰りは淡路島の上・明石海峡を抜けて大阪湾を横切り和歌山マリーナシティを経て、串本、尾鷲、波切、福田、清水と回航してきました。

出港から約1ヶ月は連日の雨と強風に弄ばれ、以降は昼夜問わず真夏の熱風で頭の中まで焼き尽くされ、フライパン状態。身も心も焼け焦げたぼろぼろの状態です。ホームポートにたどり着きました。

クルーの森ちゃんはガリガリにやせ衰え、食欲はなくお酒のみが栄養源となり、今後二度とエアコンの無い船には乗らないと宣言し、事実これ以降何度誘っても雲に乗りたいたか、故郷に帰るとか、犬が下痢だとか、鳩が鳴いているとか、二度と船に帰りませんでした。

しかし不思議なものです、ヒトは。先日久しぶりにメールが来て、このくそ寒い時期にもかかわらず、西伊豆・戸田港がポンツーン(浮き桟橋)を解放したからクリスマスには出港して新年を戸田で迎えようとのこと。ここで明らかになったのはこの病は死ぬまで治らないということでした。メデタシ、メデタシ。



例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
12/25(金) 第1394回	お弁当配布	小杉苑
1/8(金) 第1395回	会員卓話	理事会
1/13(水) 第1396回	新年賀詞交歓会	小杉苑
1/22(金) 第1397回	会員卓話	小杉苑

今週の一言

竹田敏和君



平成5年10月に屋久島に旅行しました。当時36歳の私は、志太木材協同組合青年部(緑志会)に所属し静岡県

木材青壮年団体連合会の研修旅行に参加しました。総勢25名で名古屋―鹿児島―屋久島と空路で渡りました。目的は、屋久杉 縄文杉の見学です。屋久杉は、樹齢1000年以上の杉のことで、1000年未満の杉は小杉、100年以下の杉は地杉と呼ばれているそうです。

一泊して二日目の朝、5時起床6時出発バスで登山口に移動し、7時から登り始めました。最初の2時間は、トロッコ道です。結構大変で、下を見ないと枕木を踏み外すので歩幅を合わせるのがつらかったです。途中、小杉谷事務所(S45年まで屋久杉の切り出し拠点)でビニール袋に砂を入れて縄文杉の根元にまくルールでした。標高900mからは険しい登山道になります。ところどころに、ロープとか、チェーンが設置されていて手助けをしてくれます。途中、三大杉、ウイロン株、大王杉などを見ることができました。登り始めてやく4時間、縄文杉にたどり着きました。現在は根元までいけませんが、世界遺産に指定される直前でしたので根元まで行き持ってきた砂をかけました。幹回り16.1m樹高30m、樹齢3000年の巨木です。ただ、大きさには驚きましたが、シャクナゲやらナナカマドやら多くの寄生植物があり杉とは思えない姿でした。

